

第10回みんなのタウンミーティング会議報告（令和5年度第7回）

- 1 開催日時 令和5年10月20日（金）午後7時00分～8時30分
- 2 開催場所 オンライン
- 3 参加者 市長及び市民6名
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ（市政報告）
 - (3) 懇談（フリーテーマ）
 - (4) 閉会

5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	気候危機について	<p>地球温暖化が本当に危機的だと感じています。小金井市のこれまでの歩みを見ると、2006年度を基準年としたときに、2020年にはCO2を27%削減するという目標にされていたんですが、結果的には3.3%増という結果に終わっていて、その理由として、環境政策課では人口や世帯が増えているからということをお説明されているんですね。</p> <p>ただ他の自治体では、例えば葛飾区ですと、2020年度に13年度比26%削減というのでも達成しています。これまで小金井市の建設環境委員会とか環境審議会の議論も傍聴してきましたんですが、とても危機感が薄いんじゃないかなと思うようなことがあります。例えば、自動販売機の設置を認めていくとか、気候市民会議を5年後にスタートさせる、2028年からスタートさせるというのちょっと遅いんじゃないかなというのを感じながら聞いていました。</p> <p>今、脱炭素の取組というのは世界的に進んでいて、コストとして考えるのではなくて、先行投資として考えていくべきだというのがほとんど常識になってきていて。住民とか事業者が参加して、どんな小金井に住みたいかというのを考える、ワクワクするような創造的な取組だと思うので、2022年に小金井市はゼロカーボンシティ宣言をしていますけども、このゼロカーボンシティをつくるというのは本当に夢のある取組だかなと思います。</p> <p>そこに市民の1人としてぜひ協力したいという思いもあるので、次の3点を要望としてお伝えしたいです。</p>	—

件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
	<p>1つ目が、脱炭素というのを小金井市の市政の根本に置いて、大きなビジョンとか目的を持って施策を進めてほしいなということ。といいますのも、小金井市で先ほど言ったゼロカーボンシティ宣言が出ているのが2022年なんですけど、環境基本計画ができてるのは2021年なんです。1年前にできた基本計画が10年スパンの内容になっていて、ゼロカーボンシティ2050年にCO2排出ゼロというところに持って行くまでの道筋が基本計画の中に全く書かれていないというのがすごく心配で、これだと絵に描いた餅になっちゃうんじゃないかなと思っています。</p> <p>まずは、気候危機対策の専門家を呼ぶとかして、環境政策課だけでなく、部署横断で職員の勉強会をなさるとか。本当に市政全般にわたることだと思うので、ぜひそういう取組をしていただきたいなと思っています。</p> <p>2点目なんですけど、脱炭素のまちづくりについて話し合っ、市政の意見提言する場をつくっていただきたいと思っています。気候市民会議の設置ということで、この間、環境審議会で環境対策課から出ていたんですけども、2028年の目標というふうにしていて、あまりに時間がかかり過ぎかなと思っています。</p> <p>武蔵野市の例を挙げますと、2021年の10月に再選した松下玲子市長の公約で、翌年の4月には気候市民会議の詳細の公表と参加者の選定が行われ、7月には市民会議が開催されているんです。再選してから9か月で気候市民会議を開いています。なので、この2028年開催というのはあまりにも悠長かなと思いました。</p> <p>最後に3点目ですが、CO2削減の目標値を高く設定していただきたいなと思っています。それで、また毎年削減がどう進捗しているかというのも確認できるといいなと思っています。</p> <p>産業革命前の気温上昇を1.5度以内に抑えるというのが日本も約束している国際公約で、そのためには2030年には62%削減が必要だと言われている状況です。小金井市は、市民力は間違いなく強いと思っています、ごみ減量で全国トップクラスの実績を出していたりとか、雨水を地下水にする取組が盛んだったりとか、本当に成功体験のある市民であり、まちだと思うので、ここで再び小金井市民の出番だということをぜひ市長から呼びかけていただいて、全国に先駆けてゼロカーボンシティ実現を目指していただきたいというふうに思っています。</p>	<p>そのとおりだと思っております。ただ、気候市民会議というものは、何で2028年なのか、私もちょっとよくは理解できていないんですけど、ただ、私のほうで担当課といろいろ話をしてるのは、2点目におっしゃったことに近いかもしれませんが、気候市民会議じゃなくても、今の気候非常事態について、おっしゃるように脱炭素について、もしくはゼロカーボンをどうやっていくかについて、いずれにしてもいろんな市民が気づいて、話し合うというか、そういう場というのは少なからずすぐ設定しないと駄目だよなという話を今しているところです。</p> <p>ただ、どの段階でどうできるかというのはまだ調整している段階ですので、今あまり具体的には申し上げられませんが、気候市民会議の特徴で言うと、無作為抽出で選ばれた方々が入るやり方が多いと思うんですけど、あのやり方がすごく良いなと思っております、やはり自分事として考えることが結果的に非常に大事で、そういった市民を増やすということは、そんなに重たいことをやらなくてもイベントでやれることはあると思います。</p> <p>です、2点目でおっしゃったようなことについて、似たような話を今、担当課と話し合っているところですので、それについて、いただいた意見も含めて、また話していきたい、調整していきたいと思っております。</p> <p>計画とか大方針について、脱炭素のビジョン、目的を持ってやってほしいということも最初の1点目におっしゃっていただきましたけども、確かに環境基本計画を先につくって、その後に宣言しているという、ちょっとタイミング的にいびつな構造になっていて、それが結局計画の中には反映されていないという状況、これも状況としては事実だと思っておりますので、計画をいきなり変えるのはできないかもしれないですけど、ただ、目指すものが、何のためにその目標を掲げ、やらないといけないのかということをもう一度、改めて考えて。どういう形になるかは別として、しっかり取り組まないとならずいと思っていますので、そういう認識でいることだけはお伝えしておきます。</p> <p>3点目について、まずは御意見として受け止めさせていただいて。まず、増えているという現状は、それを重たく受け止めないといけないと思いますので、危機感を持たば小金井市でもできるということは、さっきごみの減量の話もありましたけども、何となく市役所は理屈では分かっているものの、本当は危機感を持ってできているかということ、御指摘いただいたとおりかなという感想、印象を持っておられますので、それを市役所内部でどう危機感を持ってやっていくかということがまずは鍵かなと思っています。</p> <p>それを市民の皆さんにも、いかに共有しながら一緒に考え、知恵を絞って、できることからしっかり取り組んでいくということだと思いますので、ちょっと総括的なお答えになって恐縮ですけど、いただいた御意見は至極ごもっともだと認識しておりますので、できることからしっかりと取り組みたいです。また御協力のほどよろしく願いいたします。</p>

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
2	公園の整備について	<p>梶野公園は、4歳の子どもと妻と3人で遊びに行くんですけど、確かに梶野公園はただ土地があるだけで、ほぼ遊具なんて何もないような場所なので、遊具があったほうが良いとは思いますが、他の場所はいいんですか。</p> <p>もう1か所、三楽公園というところもそうらしいんですが、他の公園はいいんですかというふうにはちょっと思ったので、なぜ2か所にしたのかという経緯は、簡単に話聞けばいいなと思ったので、よろしくをお願いします。</p>	<p>公園の整備という、インクルーシブ配慮の公園の整備に関することですね。おっしゃるように、いろんな公園あるので、全てにおいて誰でも遊べるような環境に整備していくというのは当然求められることだと思っています。</p> <p>ただ、今、小金井市で、まず、いわゆる障害のある子どもも含めて誰でも遊べるような場所というのが、まず1つもないということから、まずは梶野公園と三楽公園、この2つを対象として、どういう整備内容にするかということも含めて、考え、やっついこうということになりました。</p> <p>とはいっても、全ての公園に対してそれをやるという、大きな方針もついているわけではないんです。まず、梶野公園と三楽公園というのは比較的大きなスペース広場もあって、例えば、新しい遊具を置くとか。遊具だけじゃないんですけど、例えば菜園。例えば車椅子の方が何かそういう菜園を作るとか、そういうことをある程度、何か描いてやろうと思ったときに、ある程度のスペースがないとできないことから、そういったことを考え、比較的検討しやすい梶野公園と三楽公園をまず選定して、やろうということになります。</p> <p>これ、お金の面の課題もありまして、東京都からインクルーシブ公園の整備をするという補助事業がありますので、それをうまく活用してやるということですので、まず、一旦、梶野公園、三楽公園をやってみて、ほかの公園にもどこまで例えば広げていけるのか。エリアとかいろいろ見て、そういう公園が一定程度あるというような配置みたいなものを恐らく目指していくような方向性にはなると思います。</p> <p>ですので、まずは、そういう公園、そういうインクルーシブ配慮した環境というのはどういうものかというのをまず整理するところから入っていきますので、一旦は、梶野公園、三楽公園でという、こういう考えであるということをお話いただければと思います。</p>
3	子どもの居場所づくりについて	<p>私は学童とか児童館をメインにやってきているので、特に教育の部分、不登校の支援とか貧困支援とか、そういう子ども、教育に関する部分で、誰がやるのかな、どんなふうに行っているのかなということについてすごく気にしているんですね。</p> <p>今ちょうど公募の時期で、他の事業者さんとプレゼンで勝負したりとか、いろいろやっているんですけど、正直、大きな法人さんでも、利益が出ないとあまり福祉的なものよりも、保護者の受けがいいとか、あと利益が出そうとか、そういう部分にどっちかというところも寄ってしまっているので、今ほとんど民間の事業者さんが学童に入ってきていますけど、正直すごく良い取組だなというところがあまりなくて、自分の中で、ちょっと他力本願でやっても無理だから、自分で動きたいなというところで、単刀直入に言うと、小金井市で教育の支援をやっているときに、何か市長の、「こういうふうに行っていく人材がいるともっと進めていけるんだけどな」というビジョンというか、どんな人が、促進者として進めていくのか。あとは、伴走支援する、子どもの意見を聞ける人って本当に少ないなって自分もやっついって思っていて、結構私は子どもとしゃべれるんですけど、なかなか大人の人間でそういう人って地域で全然いないなと思っていて、その辺、どんな感じの市長のビジョンがあるのか、ちょっと聞ければと思います。</p>	<p>「どの分野の何を」というところによっては、変わってくると思うんですけど、特に今お話しされたのが子どもに関わる場所だと思っていますので、そういう観点から共通して言えることは何かということ、子どもの立場で、子どもの目線で子どもの声を聞けるかどうかというのは今後非常に重要な課題となってくるんだらうなというふうには思っています。</p> <p>こども家庭庁のほうで子どもの意見聴取というのを大方義務づけられていくみたいな流れになっておりますので、それをどういうふうにするかって、結構自治体すべて、みんな悩んでいるんですね。当然事業をやる上での仕様が適切にやりながら、事業者の特徴や強みなんかを生かしてやっていただくという、そういう大きな考え方はあるんですけど、ただ、実際に子どもと接するそんな事業においては、子どもたちの様子をしっかりと見ながら、子どもたち一人一人にしっかりと寄り添って、その状況を見ながら、声かけをし、しっかりと声を聞いて、何かそこで困ったことがあったら、しっかりと支援、サポートできる、そういう人材というか、そういう事業者さんがあればいいなと思いつつながら、なかなか簡単ではないというか。</p> <p>いわゆるコミュニケーションに関する部分については、お金の換算する部分で、どうもその質ということを重視されないといいますが、何かそういう傾向がこの間、保育園や学童とか民間もしくは社会の状況なんか見ていると、あるような気はしております、そこは非常に悩ましいところではあります。</p> <p>事業をやっていただくに当たっても、とはいえ、市役所としても出せるお金、予算、バジェットというものはどうしてもあるものから、そこが多分、実際求めていることとお金が釣り合っていないということが、今の学童なんかも含めて起こっているんじゃないかなという気はしているんですね。</p> <p>だから、そういう人材を求めながら、大切なのはコミュニケーションに対する評価といいますか、そういったものをもっと社会的に認めてもらえるような流れにならないと、こういう人たちにこういうことをやっていただきたいという人がうまくマッチングできるような仕組みになっていないというふうには思っているんですね。</p> <p>ちょっとお答えになっているかどうか分からないんですけど、やっぱり大事なことは、子どもの状況をしっかりと把握し、声を聞き、本当に子どもたちが何を思っているのか、子どもたちの育ちを、自立性を重んじながらちゃんと支援していけるかという、すごく難しいことだと思うんですけど、こういう人材を求めているということだと思います。</p>

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
		<p>具体的に1つ聞いてよいですか。学童みたいなもので、子どもも増えてきているので、私の今のビジョンだと、小学校1年生から中学3年生ぐらいまでの児童が利用できる放課後の居場所、不登校なら別に放課後に限らないんですけど、子どもの居場所というようなものを事業でやったときに、例えば、市との協働事業みたいな形で提案できるのか。</p> <p>今、小4の壁で4年生になったら行き場所がないということもあると思うんです。私、今、学童に近いような子どもの支援で、子ども食堂みたいな、要は食事とかも子どもと一緒に作ったりしながら提供できる、要は、貧困対策も教育対策も居場所対策も全部ひっくるめて、小学校1年生から中学3年生までの居場所づくりみたいのができたらいいなと。場所がないんだよとか、メンバーを集められるにしても、市との協働みたいな形じゃないと、あんまり風呂敷広げるとできないよなと思いつつ、その自分のビジョンを協同事業みたいな形でできたりしないかなというのは今思っているところなので、何かもしそういうことができれば、協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>	<p>ここですぐ、よし、やろうという答えがやりにくいんですけど、ただ、お話を聞いている限りは、ニーズって言葉も適切かどうか分からないですけど、今の子どもたちの状況を考えると、そういう場というのをやっぱり市内にいくつか求められているんだろうなという気はするんです。</p> <p>結局、場所があっても、人がいなければ、ただの場所になってしまうので、それは本当の居場所になるかというところ、そうじゃないと思っていますので、やっぱり関わる人がしっかりいて、ある意味、異年齢で何か交流したりとかという、好きなことができたりという、そういう居場所というものは、いろんな子どもたちの状況を考えると、求められているところではあると思うので、お話を聞く限りは、そういう場所があったらいいな、そういう場所が増えればいいなという感想は持ちました。</p>
4	市長と市民のコミュニケーションについて	<p>今、小金井市で何が起きているのかということがすごく気になって、ここに来させてもらいました。</p> <p>今、3人のお話を聞かせてもらったんですけども、こういう人数が増えるのがまず一番目だというふうに感じています。そういう人たちがすごく大切で、とにかく1人では何もできないということを感じております。</p> <p>今、小金井市で選挙率って50%行かないぐらいですよ。40%でしたか。</p> <p>こういうふうに参加できる、こういうウェブ会議みたいなのも多分、白井市長だからやってくれているんだなというふうに思っています。こういうのが、今、数えるだけだと6人かみたいな感じで、寂しいです。この市長の大事な発言とか、時間があったりしないですね。市長の愚痴もみんなに言ってもいいような、そんな場所ができれば面白いんじゃないかと、そんなふうに思っています。</p>	<p>いろんな市民の方々に市政の状況をしっかり分かっていただきたいという思いが私にはあります。意見を聞かせていただくというのもそうですし、そもそも、まず、今、市政がどうなっているかというのをお伝えしないと、いわゆる適切な意見というか、建設的な意見交換にならないと思っています。ですので、このタウンミーティングはあくまでその手段の1つと捉えていて、そもそもは行政としての市民とのコミュニケーションをもっと抜本的に改善して、拡充していかないとはいけないと思っています。</p> <p>今回は6人なんですけど、一応このオンラインは、こういうオンラインの場だから、あんまり人が多過ぎてあれかなというので、一応定員を10人に設定はしているんですけど、大体毎回6人から8人ぐらいですかね。あと、対面でもやっております。オンライン、対面、オンライン、対面で順番にやっていますけど、対面のときは20人定員で、大体14人から17、18人ほど参加いただいております。逆に質問したくてもできなかったみたいな感じになっていて、やり方も悩ましいなと思いつつやっています。やっぱり参加できる方は限られてはいますが、地道にこれを毎月やり続けるということは大事だと思っていますのと、あと、参加された皆さんが、例えば近しい人、仲のいい人とか、もしくは何かそういう小金井市政の話になったときに、「そういうば、何か白井市長こんなこと言ってたぜ」みたいな、そういうふうに広めていただくというか、別に私のことを褒めるというんじゃないかと、「そういうば、その件についてはこういうふうに関心しているよ」とか、「そういうば市長はこういうことを言っていたけどとか、どう思う」とか、何かそういうふうに広めていただくと、〇〇さんの思いもまた伝わっていくんじゃないかなと思ったりもしています。</p> <p>あと、行政としてのコミュニケーションという話もしましたが、私が市長になって大変になっているのが、さっきの課長もそうなんですけど、広報の担当の職員でしてね。私が広報をもっとこういうふうにしたって、ああだこうだいろいろ言うものですから、ちょっとかわいそうなんですけども、まず、12月を、年内を予定しているんですけど、これはもともとそういうスケジュールではあったんですが、公式LINEをようやく小金井市も導入します。ですので、市政の情報を、お友達登録LINEでしていただければ、もっとタイムリーにいろんな情報を直接、お手元のスマホにお届けすることもできるようになります。一応年内を予定しています。</p> <p>どこまでできるかはあれですけど、来年度は市報のリニューアルを企画をしております。いわゆる「市報こがねい」って、どうもぱっと見ても、何かあまり興味が湧かない。やはり特に若い方々が、ぱっと見て、読まないって恐らく印象で決めてしまっているというふうに思いますので、若い方々でも、ちょっとでも見ていただけるようなコンテンツとかデザインとか。あと、もっと市民の活動があったりとか、市政の動きをもっと少し掘り下げて紹介するようなコーナーであったりとか、何かそういうことができる改革なんかも考えております。まず、市政の状況をできるだけ皆さんに分かっていただけて、少しでも興味・関心を寄せられるような、そういうコミュニケーションに少しずつでも変えていけるように、今ちょっと話し合っているところですので、そういうことも含めて、ぜひ小金井市政を、自分の住むまちのことについて、自分事みたいに捉えてもらえるかということの方が大事だと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
5	新庁舎・（仮称）新福祉会館建設に係る市民説明会について	<p>庁舎のことをお聞きしたいです。説明会があるというのは、市議さんのとあるチラシで知ったんですけど、すごくいいなと思って、行こうとは思んですけど、この説明会の位置づけを教えてください。これって、市長、市議、市議会の方が話されて、決まったことはこれだから、これで通しますよということを伝えるための場なんですか。</p> <p>設計を見直すことが難しいことはもちろん分かりますけど、市議さんからもらったチラシですと、トータル70年ぐらいのビルと100億、数十億単位で、何かロスが出るや出ないやらという話になっているようで、そういった大きな買物するときに何か損益が出るときって、メーカーさんだと、上の方が1回ストップをかけたとか、強行突破で行かないようにするはずなんですけど、このまま本当に進んでいいのかなって。自分も逐一情報を確認しているわけではないので、市議さんが配っている月1ぐらいのチラシをまとめて見ている程度なんですけど。損益を気にする会社に勤めている者、30代ぐらいで中堅になるかなぐらいのところなんですけど、ちょっと進め方としてコストの意識が本当にあるのかなって。</p> <p>小金井市って緑があるいい町だと思うんですけど、その分、大きな大企業さんがいなくて、法人税とかそういった大きなところから収入を得られる見込みって今後も多分ないと思うんです。何をしようにしてもお金は必要なんですけど、お金がないんであれば、できるお金で何ができるのかって、削れるところは削らなきゃというのは重要なかなと思うので、また説明会のほうでお話聞ければなと思いますので、よろしくをお願いします。</p>	<p>結果的には、こういう過程でこういうふうに進まっていますという話を中心にはなりません。部分的に広場をもう少し広くしてほしいという声もあつたりもしますし、実施設計を進めていく中で、根本的な部分はなかなか、がらっと変えたりするようなことは無理なんですけど、ただ、意見をいただく中で、もしかしたら反映できるんじゃないかというものも、ゼロではないと思っているんですよ。</p> <p>その余地は、建物はこういう建物の形で実施設計をフィニッシュさせるよという話になりますので、もっとこうしたらどうかという話はなかなか、今お聞きすることは難しいんですけど、意見の内容によっては、まだ反映できる部分というのものもあるかもしれませんので、100%これで行きますから、それ以上何も聞きませんという話ではないということです。その辺の説明の仕方はすごく難しいんですけど。</p> <p style="text-align: center;">—</p>
6	若者MIRAIトークについて	MIRAIトークについて、どんな話をするのか興味があるんですけど、私43なんですけど、参加できますか。	すみません、39歳までなんです。ごめんなさい。

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
		<p>児童館についてちょっと気になっていることがあります。最近行っていないので分からないんですが、多分今もそうだと思うんですが、児童館に子どもが行くときに、住所を登録しないと入れなかったと思うんです。私は、大人が周りにいなくても、子どもがそういう場に入れた方がいいなと思っていますんですが、住所を登録するということで1つハードルになっていると思うんです。</p> <p>他の市で児童館に行ったときに、例えば低学年のお子さんとかは住所って書けないと思うんですが、小学校の名前を言うだけで入れたんです。いろんなセキュリティーの問題は、小学校の名前を言えば何とかクリアできるんじゃないかなと思うんです。例えば、私の知っている子どもなんかでも、住所を登録できなくて、やっぱりそこで1つの排除があるんですよ。親がちゃんと見てくれない子どもたちって一定数いるので、例えば、小学校の名前を言うことで児童館に入れたら、もっと利用できる窓口が広がるかなと思っています。ちょっと御検討いただけたらなと思います。</p>	<p>いつから住所を書くようになったのか、登録するようになったのか、その辺はちょっと私も調べていないんですけども、何らかの理由があってそういうふうになっているんですよね。いわゆる安全管理の話なのか、誰が来ているかということをやっとちゃんと把握しておかないと、何かあったときにということなのか、その辺だと考えられるんですけど、それが利用のハードルになって困っている子どもがいるとすれば、何らかの対処といたしますか、それは考えないといけないところはあるかと思っておりますので、住所を書いて登録している子しか来れない状況について、どういう困り事があるのか、その辺は各児童館に確認してみたいと思います。</p>
7	児童館の利用について	<p>私、児童館を運営しているんです。小金井市は分からないんですけど、利用する際に登録に住所を聞いたり、保護者の名前を書いてもらったり、電話番号、緊急連絡先を書いてもらったりというのは、やっぱり安全管理上必要だと思うんですけど、そもそも書けないから利用させないという対応を職員がしているかどうかは、人によるんだと思うんです。</p> <p>私、自分の児童館で、学校名、住所を聞いたりして、書けないと、「えっ、自分の住所分かんないの、どの辺に住んでいるの」って個人情報聞いていくんですが、この子ちょっと支援が必要かなとか、お母さんの電話番号を書きたがらないとか、そういうコミュニケーションで子どもの状況を把握して、それを支援につなげるということもあるので、住所を聞いたりするのは一定程度、子どもとのコミュニケーションを取る上では意義があるのかなと思っています。</p> <p>ただ、そこで住所を書けないから利用させないという対応があるのであれば、そこは是正してもらったほうがいいのかなと思うんですけど。小金井市の児童館で使えないってなるのかどうかは分からないんですが。基本は、書けなかったら「今度、この紙を親に書いてもらってきてね」って言って、その日は使わせてあげて。要は、あまりちゃんと書いていない紙でも、一応仮登録という形で使わせてあげるみたいな対応をしてもらえると、非常に私としては、いい児童館の運営かなと思います。</p>	—